

分析結果報告書〔6〕 1 / 2

2.2 廃棄物(下水汚泥)試料(ほう素)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイド25) 4. M L A P 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績(年間の分析試料数)	()

回数	分析結果(mg/kg) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. メチレンブルー吸光度法 2. ICP発光分光分析法 3. ICP質量分析法 4. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他()

< 前処理(試験溶液の調製) >

試料量	1回目	()g
	2回目	()g
	3回目	()g
前処理	1. アルカリ融解法(炭酸ナトリウム融解法) 2. アルカリ融解法(過酸化ナトリウム融解法) 3. 酸分解法(湿式分解法) 4. 酸分解法(压力容器法) 5. その他()	
前処理後の定容量(試験溶液量)	()mL	

分析結果報告書〔6〕 2 / 2

< 吸光光度法 >

測定波長	()nm
------	------------------

< ICP発光分光分析法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注1)
ICP発光分光分析装置 装置の型式	1. 波長走査(シークンツェル) 2. 波長固定(マルチ) 3. その他()
バックグラウンド補正	1. 行う 2. 行わない
超音波初ライグ-の使用	1. 使用しない 2. 使用する
測定時間	()秒
測定波長	()nm

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< ICP質量分析法 >

試験溶液の希釈	希釈倍率 () 注1)
スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他()
コリジョン・リアクションセル	1. 行わない 2. 行う
水素化物発生	1. 行わない 2. 行う
補正式による補正	1. 行わない 2. 行う(その方法の概要:)
その他	補正前の指示値() 補正後の指示値() 注2)
積分時間(質量数毎)	()秒
質量数	()

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注2) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

< 検量線の作成等 >

定量方法 方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
内標準法: 内標準物質の種類	1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イットリウム(Yb) 4. Tellurium(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. Rhodium(Rh) 8. Rhenium(Re) 9. その他()
検量線 作成点数	()
作成範囲	最小() ~ 最大() 注3)
最高濃度の指示値	()
試料の指示値	1回目() 注4) 2回目() 3回目()
空試験の指示値	() 注5)
検出下限値	() mg/kg 注6)

注3) 吸光光度法では量(μg)、ICP発光分光分析法及びICP質量分析法では分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を示す。

標準添加法では添加した量又は濃度を示す。

注4) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注5) 標準添加法では記入しない。

注6) 試料中の濃度(mg/kg)として示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--